事 務 連 絡 表

件名	第 2 回「東大路通歩行空間創出推進会議」
日時	平成 24 年 4 月 23 日（月）　11 時 00 分～12 時 00 分
場所	東山区役所大会議室（3 階）

● 開会

～堀池交通政策監あいさつ～

● 議事

～議長あいさつ～

(1)「東大路通歩行空間創出推進会議設置要綱」について

～資料 1 説明～

（議長）

事務局からの改正案について御意見はないか。

（「異議なし」の声）

（事務局・中島課長）

副議長の選任に関する提案をさせていただく。

要綱第 5 条に基づき，議長に副議長を選任していただきたい。

（議長）

学識経験者 3 名を副議長として選任したい。

（事務局・中島課長）

副議長について，宗田委員，若林委員，井上委員の 3 名が選任されたが，委員の拍手をもって確認をしたい。

（拍手）

（事務局）

続いて，委員数の拡大に係る提案をさせていただく。事務局としては，東山交通対策研究会にも参画している商店街，寺，神社の方々に参画いただければと考えている。

（議長）

事務局からの提案について御意見はないか。

（一同，無言）

（議長）

それでは，了解いただいたこととする。

(2) 東大路通整備構想（素案）について

～資料 2 説明～

（副議長）

この「整備構想（素案）」について，基本的にはこれでよいと思っている。私自身，東大路通の歩道が非常に歩きにくいことを認識しており，これから本腰を入れて検討に入らなくてはならないが，私は歩行環境と公共交通の利便性の両立が重要だと考えている。

公共交通については，マイカーと同じ空間を走ると，昔の市電と同様に定時性が確保されなくなり，路線バスの利用者が減少することが懸念されるため，公共交通優先レーンが必要だと考えている。

そのための新しい公共交通システムは必要ではなく，今，京都に存在する公共交通を組み合わせることで，便利で快適な公共交通システムができると考える。

私は，最近，バスに乗り，五条坂で自分が乗っているバスが他のバスと連なるときに，自分が乗っているバスのドアがいつ開くのか測ったり，バスの蛇行運転の状況や右折待ちを行う車の台数，タクシーの台数等を見ている。施策を実現するには，様々な利用者の立場から多角的に検討していけば，何が本当に必要なのかわかってくるのではないか。

（地元代表）

10 ページ目の「「歩いて楽しい東大路」の実現の流れ」では，具体的な工程が示されていない。いつまでに何をするのか示してもらいたい。

（事務局・中島課長）

今回の会議で「東大路通整備構想」の素案を取りまとめ，パブリックコメントにより市民の皆様の御意見をいただいたうえで，事務局で案を取りまとめ，第 3 回会議に諮りたい。

（京都市都市計画局歩くまち京都推進室・中村委員）

「歩いて楽しい東大路」の実現に向けて，目標年次を明確にしてほしいというのは，地元の皆様の思いとして私どもも十分理解をしているが，必要な調査や検討すべきことがある。1 日でも早く調査，検討を行い，整備に伴う課題への対応を決めながら，完成年度を明示し

た資料を示せるよう努力していきたい。

（地元代表）

四条通が先行して進められているが，どこまで進行しているのか。

（京都市交通政策監・堀池委員）

四条通については，平成 18 年度から検討に着手し，今年 1 月に都市計画決定を行った。今年度は詳細設計を予定しており，来年度から工事着手したい。工事は概ね 2 年で考えており，平成 26 年度中の完成を目指しているところである。

東大路通については，測量，調査，予備設計，関係機関協議を経て，改めて年次計画をお示しすることができるため，現時点では，具体的な年次を明らかにすることを控えさせていただきたい。

（地元代表）

6 ページに「公共交通の効率的で円滑な運行を目指します」とあるが，公共交通とは何かをお聞きしたい。

（京都市都市計画局歩くまち京都推進室・中村委員）

公共交通とは，路線バスやタクシーと考えている。また，東大路通には通っていないが，地下鉄等の鉄道も含めている。

（地元代表）

民間の路線バスは，公共交通に含むのか。

（京都市都市計画局歩くまち京都推進室・中村委員）

民間の路線バスも含むものと考えている。

（地元代表）

市バスのみということになると，全く話が違ってくるので，そのあたりも含めて検討していかなければならない。

（副議長）

公共交通を定義づけることは非常に難しい。例えば，乗客を早く運ぶという観点で考えれば，空車のタクシーは公共交通ではないという考え方もある。何を公共交通と位置づけるのかについては，考えていかなければならない。

（議長）

以上の議論を踏まえて，「東大路通整備構想（素案）」について，この会議の場で，承認するということでよいか。

（一同，無言）

（議長）

では，これを素案として確定したい。最終的なチェックを入れながら，これをパブリックコメントの資料として確定していきたい。

(3) 今後の予定について

～資料 3 説明～

（副議長）

「東大路通整備構想（素案）」によりパブリックコメントを行い，他の市民の了承をいただくことになる。東山区の人口当たりの交通事故件数は，左京区の 2 倍以上である。道路環境が悪いこともあるが，観光シーズンの東山区において，四条通や細街路を含めて使い方の問題がある。東山区の人口当たりの自動車保有台数が，全市平均の 3 分の 2，多い区と比べれば半分に過ぎないのに，事故が多いことから，地元の方々は迷惑をしている。市の北部と南部の通過交通が多い。

東山は日本最大の観光地なので，自動車交通での通過を遠慮しようという動きがあってもいいと思う。高齢化が進んでおり，新たに東山区のマンションに住まれる方はマイカーを持たず，公共交通で移動している。区外の方々は東山を自動車で通過することを遠慮したり，道路空間をうまく使い分けたりする考え方が重要になる。その際には，区外の方々から反対されることもあると思う。しかし，その意見を受け止めながらも，人命が重要であり，安全性を確保するために，「市全体でこの問題をどう考えるか」という話を，パブリックコメントを受けて上手く整理できれば，その後の協議は円滑に進むと思う。10 ページ目の流れの図のスケジュールで進んでいきたいものの，協議・合意で 2～3 年ずれ込む恐れがある。パブリックコメント以降，この協議が上手く進めば，四条通より 2 年遅れで済む。それを丁寧にやらないと遅れていく。

パブリックコメントを含めて，この会議で，そのあたりについて，市民とのやりとりができるようにしていただければと考えている。

（議長）

パブリックコメントを通じて理解を深めていくことが必要である。副議長が発言された視点を，他の事業でも何とか取り込んでいただき，伺うことができればと考えている。

パブリックコメントの期間はどのように考えているのか。

（京都市都市計画局歩くまち京都推進室・中村委員）
5～6 月にかけてパブリックコメントを実施したいと考えている。

（議長）
意見を集約して，夏ごろに第 3 回会議を実施するものと考えてよいか。

（京都市都市計画局歩くまち京都推進室・中村委員）
結構である。

（地元代表）
パブリックコメントの手法はどのように考えているのか。特に，沿線は利害関係が多いと考えられるが，どのような手法をとるのか。

（事務局・中島課長）
広報については，市民しんぶん全市版により，市民に周知することを考えている。区役所では，素案付きのパブリックコメントの意見用紙を置いていただく。区民には，東山区役所地域力推進室と相談しながら，可能な限り多くの意見をいただきたいと考えている。
提出方法としては，ホームページ，FAX，郵送，区役所への持参でもよいので，多くの意見をいただきたいと考えている。

（地元代表）
自治会単位で，意見を集約するという方法をとるのか。

（事務局・中島課長）
学区を通じて，学区内の方々に，意見用紙を配布する必要があるのならば，こちらの方に申し出ていただきたい。

（京都市都市計画局歩くまち京都推進室・中村委員）
パブリックコメントは，個人単位のみではなく，自治会の総意で提出したいのであれば，自治会名で提出されても良い。任意の団体ならば，団体の名称で提出されてもよい。

（事務局・高畑課長）
各自治連の会長に必要部数を配布し，可能な限り意見をいただきたい。地域の方々には，非常に関心が高い問題であるため，できる限りのことはしたい。

（地元代表）

「パブリックコメント」とは，どういう意味なのか。

また，案内いただいた会議「東大路通歩行空間創出推進会議」と，「歩いて楽しい東大路をつくる会」とはどう違うのか。

それに，今更，測量や調査なのか。東大路通の歩行者の挙動などを調査するなどは，以前から我々も参加してやっている。交通量が多い，歩行空間が悪い，バスの乗り降りの話も，昨日今日の話ではない。

我々は，地域の人々に，東大路の話をするが，「実はこういくことをやってもらっている」という話を，いつ貰えるのかを知りたい。

調査などばかりで，具体的なことが我々に全く伝わってこない。

（議長）

事務局から簡単に再確認の意味を込めて説明をお願いしたい。

（京都市都市計画局歩くまち京都推進室・中村委員）

会議の名称で，混乱させている点は申し訳ないと考えている。

目指すことは，歩いて楽しい東大路を作っていきたいということであり，その１つの手法が歩行空間創出ということで，会議の名称を「歩行空間創出推進会議」とさせていただいた。会議の内容については，名称にこだわらず，「歩いて楽しい東大路」のために議論をしていただきたい。

また，「測量・調査をなぜ改めてやるのか」という話だが，これまで，東大路通の整備のために，詳細な測量をしたことはなく，これから計画を立てるうえで，必要となるため，御理解願いたい。

また，調査についても，ここ10年の傾向だが，右肩上がりだった通過交通量が減少傾向にあるため，「歩いて楽しい東大路」の実現のために必要と考えている。

特に，今回は，道路空間の再構築なので，しっかりと把握して，将来を予測する必要がある。

地元から見ると，計画ばかりで，事業の進捗の姿が見えないという気持ちは十分に理解している。この事業を１日も早く実現するためには，測量や調査を１日でも早く実施することが早道と考えているため，協力をお願いしたい。

（事務局・中島課長）

「パブリックコメント」の意味は，「市民意見の募集」である。

歩いて楽しい東大路の実現に向けた基本方針を市民の皆様に投げかけ，広く意見を求めるものである。

（議長）

抽象的な表現である「歩いて楽しい」を，東大路で実現するために，歩行空間を拡大していく。そのための会議が，今回発足したことで，一歩具体化した。しかも，測量を行うことで，予算を含めて具体的な数字が出てくる。一歩一歩具体的な所へと進んでいるものと理解していただきたい。

（地元代表）

私は，何年か前に，この地域のバリアフリー化のために，歩いてまちを見ている。その際に，京都市の担当の方と歩道の断面を調査したため，今更という気持ちが強い。また，車線の変更については，予算があればできるのか。難しいのなら，難しいと言ってもよいと思うが，何とか努力するという調子だと思う。ご協力を願いたい。

（議長）

感想として受け止めさせていただく。

（地元代表）

スケジュールについてだが，国交省の京都国道事務所が，五条通における歩道整備や陸橋の撤去等の工事をした際，その話が地元に来て，ワークショップ等色々なことを行い，最終的に完成するまでに 7 年ほどの期間を要した。その間に，3 年ほど，議論も何もが動かなかった時期があった。それは，事務所の担当者が異動されたからであった。

今回は，今の担当の方々がおられる間に，何とかしていただきたい。それができなければ，異動をストップしてでもやっていただきたい。

（議長）

この会議が，年度跨ぎで開かれたことが，そうでないことの証明であると考える。

それでは，時間が来たため，会議を閉会とさせていただきたい。

整備構想については，この会議の場で承認されたということで，今後，パブリックコメントを行い，市民の意見を広く入れながら，整備構想を確定させていくこととしたい。

次回以降は，今日の設置要綱の改訂に伴い，委員の拡充を行う。今後，多くの利害関係者との調整が必要なためである。

第 3 回推進会議で整備構想が確定した後，具体的にどうしていくかについて，区民の方々の力を借りることが考えられるため，今後ともよろしくお願いしたい。

● 閉会

～別府歩くまち京都推進室長あいさつ～